

「中国人的夢（チャイニーズドリーム）」

総社西小学校 多田賢一



記念写真を撮る若者たち



内陸地方から出てきた女店員



クルージングでの豪華結婚式

中国に3年間過ごし、庶民の暮らしぶりを見ていて不可思議に思うことがある。上海・蘇州の平均的サラリーマンで、月収1,200元（日本円で約1万8,000円）程度の給料がもらえる。ところが、内陸に行けば行くほど人々の生活は貧しくなり、月収ではなく年収が2万元程度（約3万円）になる。旅行で訪れた湖南省や甘粛省といった辺鄙などころでは、家の造りや人々の生活の様子から、その貧しさが見て取れた。蘇州で暮らして感じるほどの庶民の生活の豊かさは、そこでは全く感じられなかった。

それに反し、どこへ行っても政府の幹部役人や多くの事業主は高級車に乗り、多くのマンションを保有している。そして、日本のお金持ち以上の豊かな生活をしている。宴席で彼らのしている会話内容を通訳に尋ねると、株でいくら儲けたとか事業収入の自慢話であり、終わりはいつも儲け話の情報交換であるらしい。彼らは、自分たちの息子や娘を贅沢に育て、海外留学や金持ち同士のハデ婚に膨大なお金をつぎ込む。彼らと息子や娘たちは、特権階級のように振る舞っている。

一方、その恩恵に浴すことのない多くの若者たちは、貧しい地方の生活から脱却すべく、集団や個人で上海や北京といった都会を目指す。ただ、戸籍を移すことは、法律で禁じられているため、不法に出稼ぎに来ている。地方では、1日働いて10元（150円程度）1ヵ月で300元（4,500円程度）だそうである。生活の平等を謳ってきた中国で、なぜこんなにも生活レベルに差ができてしまったのか。

そんな中、私たちが懇意にしていたお茶屋の女店員は、口を揃えて今の生活が一番だという。その理由は、1ヵ月で1,000元ももらえるというのである。500元は親兄弟へ仕送りし、200元は将来への貯蓄、300元が生活費だそうだ。日本人的感觉からすると、可愛そうとなるが、彼らの親を思う気持ちと未来志向する心の豊かさは、今の日本の若者が遙か昔に失った物である。とにかくどんな若者も未来を信じ、目がきらきらしている。私たちは、そんな若者に出会うたびに、感動すると共にわが子と比較して、ため息が出るのである。金持ち連中の欲にくらんだ目のぎらぎらと比べ、とても純粋な心を持っていると感じる。

「混沌から未来志向へ！」中国の若者たちに、混沌とした中国社会において

大いなる将来性や可能性を知ることができた3年間であった。